

平成29年度  
第1回周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議  
会議録

日 時：平成29年8月1日（火）

場 所：周南市役所 西本館1階 選挙管理委員会会議室

## 【会 議 次 第】

- 1 開 会
- 2 政策推進部長あいさつ
- 3 委員の自己紹介
- 4 会長及び副会長の選出
- 5 周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について
- 6 議 事  
(総合戦略) 推進施策に関する進捗状況の検証について
- 7 その他
- 8 閉 会

### 《 配付資料 》

- ・ 委員名簿
- ・ 第1回戦略会議次第
- ・ 目次と評価方法
- ・ 総合戦略に係る実施事業評価
- ・ 補足資料
- ・ 会議の配席表

## 第1回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議 会議録

- 日 時 平成29年8月1日（火） 13時30分から
- 場 所 周南市役所 西本館1階 選挙管理委員会会議室
- 出席者 ・委員 9名  
石川 英樹、河田 正樹、小松佐穂子、中川 明子、久野 耕一郎、  
岡田 浩、細川 英樹、山根 耕太郎、柘村 実行
- ・事務局 6名、主要事業担当者  
政策推進部長 増本 俊彦、政策推進部企画課 課長 岩崎 達也、  
主幹 川口 洋司、課長補佐 中村 貴子、企画担当係長 富永 将介、  
副主任 通山 汐里、主要事業担当者（15名）

- 資 料 ・会議次第のとおり

### 会 議 議 事 録

#### 1 開 会

#### 2 政策推進部長あいさつ

皆さま、こんにちは。政策推進部長の増本でございます。

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。また、この度は、「周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議」の委員にご就任いただき、誠にありがとうございます。

昨年の9名のうち、7名の方に引き続きお引き受けいただき、今回新たにお二人が委員に就任されました。誠にありがとうございました。

さて、皆様方ご承知のとおり、国が定めた「まち・ひと・しごと創生法」に全国の地方自治体が総合戦略を策定し、我がまちにひとの流れを呼び込もうと、知恵を絞り、それぞれの地域特性を生かした取組みを進めているところでございます。

本市におきましても、昨年の1月、「未来に贈りたい周南（まち）をつくる。」をコンセプトに、「周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環の確立に向け、鋭意取組みを進めているところです。

地方創生の取組みをスタートさせて3年目を迎えておりますが、現在、周南市が

行っております、総合戦略の関連事業につきまして、委員の皆さま方に評価検証を行っていただき、これまでの取組みの進捗管理を行うとともに、その取組みをさらに加速化させて参りたいと考えております。

この戦略会議につきましては、本日と8月中旬の2日間に分けて行う予定としており、大変ご迷惑をおかけいたしますが、限られた時間のなかで、忌憚のないご意見をいただければと思っております。

それでは、本日は、どうぞよろしくお願いたします。

### 3 委員自己紹介

(名簿順に委員の自己紹介、事務局の自己紹介)

### 4 会長及び副会長の選出

◇事務局 それでは次に、「会長及び副会長の選出」に入ります。「周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議」設置要綱第5条で「戦略会議に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。」とされております。皆さまの互選により、会長・副会長を選出したいと存じます。

どなたか、ご意見はございますか。

●委員 昨年に引き続き、会長には徳山大学の石川先生、副会長には徳山高専の中川先生にお願いできたらと思います。皆様、いかがでしょうか。

●委員 (異議なしの声)

◇事務局 ただいま委員からご提案がございましたが、異議なしという言葉いただきましたので、会長には、徳山大学の石川英樹委員、副会長には、徳山工業高等専門学校の中川明子委員にお願いしたいと思います。拍手をもってご承認をお願いいたします。

●委員 (拍手承認)

◇事務局 ありがとうございます。委員の皆さまのご承認により、会長に石川委員、副会長には中川委員が選出されました。それではここで、会長、副会長より一言ずつご挨拶をお願いいたします。

○会長 ただ今、昨年に引き続き会長を拝命いたしました、徳山大学の石川でございます。皆様より意見をいただきながら、有意義な会議にできればと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

○副会長 昨年に引き続き副会長を拝命いたしました、徳山工業高等専門学校の中川と申します。石川会長と共に進行を務めますので、よろしくお願いたします。

## 5 周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について

◇事務局 ～「周南市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要」について説明～

## 6 議事

### （総合戦略）推進施策に関する進捗状況の検証について

◇事務局 これから本日の議事に入ります。これ以降の進行につきましては、設置要綱第6条の規定により、会長が議長を務めることとなっておりますので、石川会長、どうぞよろしくお願いいたします。

○会長 はい、かしこまりました。それでは早速、議事を進めさせていただきます。2回に分けて重要な項目をチェックしていこうということですので、ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。

◇事務局 勝手なことを申しまして申し訳ありませんが、本日は資料で言いますと11ページまで進めることができればと思っております。基本目標の3が終わるところです。時間で言いますと1推進施策あたり10分程度と考えています。とは言え、評価・検証ですので、時間を区切るというよりは結果として10分程度になるとお考えいただければと思います。

○会長 分かりました。そのあたりも踏まえて、委員の皆様にはコメントをいただければと思います。

#### 【基本目標1の（1）についての議事】

◇事務局 ～基本目標1の（1）について説明～

○会長 ありがとうございます。今の説明につきまして、委員の皆様ご質問はございませんか。

●委員 引き続き予算確保のため国、県及び関係団体へ要望を行うということですが、事業が採択されたから終わりではなく、今後も予算確保のための活動が必要不可欠ということでしょうか。

◇事務局 そうです。この事業の主体は国ですので、今後もきちんと進めていってほしいというお願いをしていく、という状況です。この国際物流ターミナル整備事業を、まず事業として興してもらいたかったということがありました。事業として興したのでそれで終わり、ということではなく、今後きちんと進めていけるように、地元としても要望を重ねていきたい、という思いです。

●委員 情報共有を続けていくという理解でよろしいでしょうか。

◇事務局 はい。

○会長 では評価に関する点も含めて、委員の皆様ご意見いただけますでしょうか。

●委員 現時点でB以外はつけようがないと思います。見直しをする必要はないけれども、もう少し推移を見ていかないと結論は出せません。昨年も同じような意見でBという判断でした。実際に採択されて、ここから進捗を見なければいけ

ません。今は成り行きを見守っていく、という点でBだと考えます。

○会長            ありがとうございました。K P I の数字の上ではまずまずですし、まだこれからの事業ですので現時点で有効だとは言えない、という点でBと考えます。

                  評価のコメント部分はいかがいたしましょう。

◇事務局        特段あれば頂きたいところですが、いただいたご意見の中から事務局にてまとめます。

○会長            では事業としては着実に進めて、波及効果などは今後も見なければいけない、という意味でB、ということですね。あとは事務局にてまとめてもらいます。

                  ではB評価でよろしいでしょうか。

●委員           (全員、異議なし)

○会長            ではB評価といたします。続いて基本目標1の(2)に入ります。事務局にて解説をお願いいたします。

**【基本目標1の(2)についての議事】**

◇事務局        ～基本目標1の(2)について説明～

○会長            ありがとうございました。一つ目のK P I について目標値を大きく達成していますが、要因はあるのでしょうか。

◇事務局        内訳は、平成27年度大企業8、中小企業6、平成28年度大企業8、中小企業7ということで、PRがうまくいっているのではないかと思います。

◇事務局        今、日本全体で景気が上向いている中、化学業界、化学工業については、どの企業も設備投資が活発化しているということもあり、K P I の目標値を達成する状況に至っております。

○会長            ありがとうございました。何か他にご意見はありますか。

◇事務局        事務局より1点お願いです。資料の中で様々な事業が出てきます。専門用語でお話ししてしまうことがあります、分からない事業も多々あるかと思えます。その際は遠慮なく聞いていただければと思います。

                  例えば、事業所等設置奨励制度というものは、企業が設備投資を拡充した等の際に、それに応じた固定資産税分について、2年間上限を決めてお返しする、といった制度です。こういった基本的な部分を説明していませんので、疑問点がありましたら、遠慮なくお聞きください。

○会長            ありがとうございます。委員の皆様、質問はございませんか。

●委員            目標値の設定の仕方が累計になっています。たとえば主要事業1つめの「企業立地促進事業」については、平成29年度の目標が27件に対して、平成28年度実績で29件とすでに目標値を達成している。しかしもし、平成29年度の実績値が0件だった場合、この評価はどのように行えばいいのでしょうか。

                  毎年9件ずつというように目標値を設定するなら分かりやすいと思いますが、累計で設定すると、前年は頑張ったが今年は件数が上がらなかった、という場

合に評価が難しいと思います。

◇事務局 5年間の目標なので、最終的には累計で判断するようになると思います。ただおっしゃるように、分かりやすさの面で言うと、毎年9件ずつという形です。今年は少なかったが来年は頑張ろうというように、波があったとしても、最終的には累計をみて判断する形になります。

○会長 最終年度の姿というものを目指しているということですね。

◇事務局 そうです。毎年何件ずつという形で計画的に行う方法であれば、単年度ごとに目標値を設定した方がいいかと思いますが、5年間の中でこの数値を達成するというように捉えていただければと思います。

●委員 でしたら、こういった会議で毎年評価する意味はないですよ。今年はAでも来年はBになる、その次はCになる可能性もあるわけですから。

◇事務局 たしかにおっしゃる通りです。実際は、事業としても市としても単年度で動いていますので、今年は累計で作成しておりますが、今後所管課とは調整していきます。調整の上、委員の皆様が評価しやすい形で提示できればと思いますので、持ち帰って検討いたします。

○会長 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

●委員 平成28年度に1社の本社機能が周南市に移転してきたということですが、この会社は周南市との繋がりがとても深い会社だと思います。今後毎年1社ずつでも本社機能を周南市に置く、ということになった場合、28年度の会社は周南市に繋がりがあったという側面が強いと思いますが、今後の他の企業については、その他の工夫が必要かと思うのですが。

◇事務局 そうですね。まずこの制度についてですが、ここでいう本社機能というのは、東京にある本社機能、いわゆる経理や監査などが周南市に移転してくる、というもののほか、研究所の機能もこの制度の中では本社機能という扱いになっております。周南市としては、この研究所の機能の移転について取り組みたいところですが。

今回実績値にあげている1社については、経理や監査といった本社機能の移転ですが、周南市としては、研究所の機能の移転について常々企業の皆様にお願ひしております。

●委員 化学関係の施設に来てほしいということでしょうか。

◇事務局 そうです。製造施設だけでなく研究所があることで、マザー工場として周南市に根付いていただきたい、という戦略で行っております。既に報道発表されている2社については、研究所が次々に周南市に立地している状況です。

●委員 わかりました、ありがとうございます。

○会長 奨励金などの影響を受けていると考えてよろしいですか。

◇事務局 周南市に来ていただきやすいような制度を用意しているということなので、

そのように考えていただいでよろしいと思います。

○会長       では評価について、すぐに研究所を誘致するというのは難しいですが、数値の面でみれば、Aという評価でいいかと思います。皆様ご意見いかがでしょうか。

●委員       (全員、異議なし)

○会長       ではAという評価にいたします。それでは基本目標1の(3)に入ります。事務局にて解説をお願いいたします。

【基本目標1の(3)についての議事】

◇事務局     ～基本目標1の(3)について説明～

○会長       ありがとうございました。委員の皆様、何か質問がありましたらお願いいたします。

●委員       水素利活用推進事業について、「登録電池自動車・水素自動車の登録台数」という目標指標に対し目標値を下回っていますが、今後達成できそうな見込みはあるのでしょうか。

◇事務局     今、日本全体で、燃料電池自動車の販売台数がようやく1,000台を超えました。また、水素自動車や燃料電池自動車が普及するために必要な水素ステーションの普及が、思うように進んでいません。これは、当初の経済産業省の目標を下回っています。当初の目標では、水素ステーションの数は2年前に100を超えているはずでした。この点については市だけでなんとかできるというものではありません。水素ステーションを作るためには非常にコストがかかる点がネックになっており、国の方も予算を使い、あるいは個々の企業が競うのではなく、協力してお金を出し合って取り組む、という状況になりつつあります。

また、車の販売については、ディーラーとの連携も必要な中、なかなか思うように進んでいない、という状況です。それはやはり、水素ステーションが市内に1カ所しかない、また車の価格も高いということも要因ではあります。自動車会社も、水素ステーションが十分でない中で、燃料電池自動車の製造台数を増やすことができない、という状況です。

以上をふまえると、目標値としても挙げている通り今後も取り組んでいきたいところですが、状況としては、今申し上げたような状況が正直なところです。

●委員       ハイブリッドや電気自動車も今は進化していますし、水素じゃなくてもいいんじゃないかという話が出てくると思います。その辺りも含めていかがでしょうか。

◇事務局     当初から予測はしていましたが、電気自動車はおそらく増えていくだろうと思います。ただ、ガソリン車に比べると走行距離がかなり短いという点があります。もちろんリチウムイオン電池によってこれから性能は上がっていきます

が、その点を加味してもガソリン車には到底及びません。その先を見据えると、燃料電池自動車も今後は普及していきたくらうと我々は考えていますし、周南市の特徴としても水素をたくさん生み出せるという点があります。今後水素の需要が伸びると想定し、水素に関する知識や技術を市内の企業に磨いていただき、新産業の創出につなげていく、というのが我々の考えです。

○会長      ありがとうございます。では評価についてですが、K P I の点でいうと達成できていない点と、主要事業についても、指摘されたように燃料電池自動車・水素自動車の登録台数が目標値を下回っています。この点をふまえるとAという評価はできないと思いますので、BかCということになると思います。いかがでしょうか。

●委員      目標値についてですが、主要事業の水素利活用推進事業について、平成30年、31年は目標値が一気に増えています。大幅に増やしている理由は、目標値を設定するにあたって、根拠があるのだと思います。しかしこれまでの説明を踏まえると、目標値の設定条件が崩れると思います。平成28年度は目標値を10件下回っていますが、今後はこの差が開いていくと思われます。そういった面で、目標値の修正が必要になるのではないのでしょうか。

◇事務局    はい、修正については企画課とも相談していきます。商工振興課としても、先ほどご説明したようなこともありますし、国の見込みほど水素ステーションも普及していない中で、今後目標値の見直しをしていこうと思います。

◇事務局    総合戦略自体も、P D C Aを回していきながら、5年間でできることを着実に進めていくという上で設定しています。当然、見直しも含め、今後も進めていきます。評価の指標についても、そういった視点で評価していただきたいです。よって様々な意見があった方が、こちらとしても大変助かります。

○会長      今のお話も含めての評価ということになると、Cということになりますか。

●委員      ええ。見直しはやはり必要でしょうね。水素をどういうふうに活用するかという点もありますね。自動車ばかりに注力していると失敗する可能性もあります。水素があるので活用しようという考え方は決して間違っていないと思いますが、他の部分で活用していく検討も必要だと思います。

○会長      はい。いまCという意見が出ましたが、水素の活用の方向性について見直しが必要かもしれませんね。いかがでしょうか。

●委員      (全員、異議なし)

○会長      では見直しが必要ということで、Cという評価にいたします。  
続きまして、基本目標1の(4)に入ります。

#### 【基本目標1の(4)についての議事】

◇事務局    ～基本目標1の(4)について説明～

- 会長            ありがとうございました。ご質問などありますか。
- 委員            去年の議事録をみると、会長の発言で、今後6次産業化が進んだ場合、会社設立や法人化などに結びついた件数が補助データとしてあれば、評価・検証しやすいのでは、とありますが、いかがでしょうか。
- ◇事務局        そのデータについてはまだ確認しておりません。
- 会長            ありがとうございます。評価についてですが、1年前とは状況はあまり変わっていないように見受けられます。前回Bという評価がされていますし、Aという評価までにはいかないですね。今回もBのように思われますが。
- ◇事務局        現時点で、主要事業の目標指標について認定件数は2件となっております、基本目標である雇用にまで繋がっているかということ、まだ判断がつきにくいという認識です。
- 会長            基本目標に対する数値目標について、恐らくそんなにすぐにこの数字に結びつくものではないですよ。5年間の計画ですし、長い目で見て、今後もチェックする必要があるということですね。
- 委員            1点質問します。6次産業化推進事業は国の支援事業になっているんですよ。周南市の認定件数が2件というのは、全国水準でみるとどの程度の数値になるのでしょうか。
- ◇事務局        山口県内でいいますと、平均程度です。ただ、この事業については国の補助制度と県の補助制度、市の補助制度とありまして、K P Iの目標値といたしましては、国の補助における認定件数です。県の補助と市の補助を合わせて上乘せするという補助制度については、毎年1件もしくは2件補助しております。
- 委員            全国レベルでもそんなに引けをとっていないということでしょうか。
- ◇事務局        そのように考えております。
- 会長            ありがとうございました。いかがでしょうか、評価については去年と同様の評価かなと思いますが。
- 委員            (全員、異議なし)
- 会長            それでは評価はBにいたします。続きまして基本目標2に入ります。(1)について説明をお願いいたします。
- 【基本目標2の(1)についての議事】
- ◇事務局        ～基本目標2の(1)について説明～
- 会長            ありがとうございました。何かご質問ありましたらお願いします。
- 副会長        主要事業の「婚活・子育て応援事業」について、目標指標の「婚活子育て支援活動助成件数」が目標値を下回っていますが、これについて要因はあるのでしょうか。
- ◇事務局        目標値についてですが、子育て支援活動補助金と婚活イベント開催事業補助金という、2つの補助金を合わせた件数を目標値としています。平成28年度

の実績で、子育て支援活動補助金の実績件数が8件、婚活イベント開催事業補助金の実績件数が3件、という内訳になっています。その中でも婚活イベント開催事業補助金については、平成27年度の5件から、平成28年度は3件に減っております。少子高齢化に向かう中では出会いの場を作ることが1つの施策、という考えのもとで実施していますが、なかなかイベントの実施に繋がっていかない、というのが要因だと考えております。実施している方々の意見を聞きながら、改めて今年度イベントを実施してもらえよう、取組みを進めていきたいと考えています。

○副会長 特定の方がイベントを実施しているのでしょうか。

◇事務局 2年続けて同じ団体が実施したイベントもありますし、平成28年度から初めて実施したという方もいらっしゃいます。子育て支援活動補助金を使った子育てサークルについても、常に同じ方ではなく、いろんな方が実施しています。

○会長 その他ご質問いかがでしょうか。なければ評価の意見をいただきます。

基本目標である1,000人あたりの出生数は下がっていますが、事業については概ね順調に進捗している、という状況ですね。前はAという評価ですが、いかがでしょう。

●委員 1点いいですか。1,000人あたりの出生数が下がっている点が気になりますが、要は1,000人あたりというわけで、分母となる人口構成が変わってくるというのが問題ではないでしょうか。合計特殊出生率に近い値でいうなら、15～49歳までの女性を分母にするとまた変わってくるのではないのでしょうか。このままでいくと7.9という最終目標は厳しいと思います。結局は産める人がより産めるようにする、ということですよね。高齢者を多く抱えている人口構成なので、分母の方の問題もあり、そのあたりの見直しは必要かなと思います。

よって評価の方は、主要事業については概ね順調に推移しているし、出生数については大目に見るのかというあたりで変わってくると思います。

○会長 主要事業やKPIについてはほぼ目標値を達成し続けているので、その面ではAという評価になりますがいかがでしょうか。

●委員 そういった数値の面ではもちろんAでいいと思います。

○会長 たしかに基本目標の設定については気になりますよね。ただ、その達成に向けて設定された推進施策については、目標値が達成されているという点ではA評価でいいかと思います。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 それではこの推進施策についてはAという評価といたします。では次の推進施策に移ります。事務局にて説明をお願いします。

【基本目標2の(2)についての議事】

◇事務局 ～基本目標2の(2)について説明～

○会長 ありがとうございます。質問やお気付きの点をお伺いします。

では私からですが、主要事業「保育士の継続的・安定的な確保」の中の、アクションプランの「ハローワークと連携した保育士確保事業の実施」について、開始時期が平成29年度からになっているのは何か理由があるのでしょうか。

◇事務局 保育士の掘り起しということで、昨年9月から取り組んでいます。保育ニーズが増えていることから、継続的に保育士の雇用に取り組むべきだと考え、年度途中から事業を始めました。

●委員 ハローワークとの連携事業というのは、民間保育所の保育士を確保するという意味でしょうか。公立とも連携していくのでしょうか。

◇事務局 公立と民間で一緒になって進めています。民間も保育士が充足しているところもあれば、そうでないところもあります。今年の2月にハローワークと連携して行った「保育士就職フェア」という見学会を開催しましたが、公立である周南市としても出席し、民間で保育士を必要としている事業者も出席しています。このように、保育士確保の取組みについて、一緒に進めているところです。

◇事務局 その中で、実際に民間に就職が決まったという報告も受けております。

●委員 ありがとうございます。

○会長 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。なければ評価についてですが、昨年は、KPIの児童クラブ定員数と主要事業について、あまりデータがなく、評価が難しかった記憶があります。そういった意味で昨年は、様子見としてB評価にしたと記憶しています。今年はデータが加わっての評価になりますが、いかがでしょうか。基本目標に対する出生数が下がっているのは先ほどから同じですが、この推進施策全体での評価となると、BもしくはAになるのではないのでしょうか。1つ前の評価との整合性を考えるとAの方がいいような気もしますが。

●委員 ただ、もう1年様子を見るのもいいと思います。保育所の公立から民間への移行というのも、目標値をみると平成29年度が大幅に増えていますよね。もう民間に移行するというのは決まっているのでしょうか。

◇事務局 そうです。計画的に進めています。

○会長 たしかにAというよりは厳しくみてBという評価でしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 ではBという評価といたします。続きまして次の評価に入ります。事務局より説明をお願いします。

**【基本目標2の(3)についての議事】**

◇事務局 ～基本目標2の(3)について説明～

○会長 ありがとうございます。ご質問やお気付きの点がありましたらお願いします

す。

では私から、K P I の中学校の空調設備整備事業は平成30年度からの目標値になっていますし、主要事業のいくつかについても、まだ目標値の開始年度になっていないものがあります。こういったものは、中長期計画としてこのように組みれているということでしょうか。

◇事務局 そうです。まずK P I の中学校の空調整備については、今年度までで設計を終える予定になっています。所管課としても、今年度から着工に移したいというところですが。ほぼ予定通り空調整備については進んでいます。

○会長 主要事業の「子どもの明るい未来をサポート事業」については、今から調査でしょうか。

◇事務局 今年度調査を行い、それからの展開をみていくというところですが。

○会長 その他いかがでしょうか。

●委員 空調整備は中学校しか対象になっておりませんが、それはこのK P I 上の話で、小学校についても同様に整備するのでしょうか。

◇事務局 周南市については、空調整備は中学校のみです。

●委員 小学校はまだ計画に無いということですね。

◇事務局 保健室などにはありますが、普通教室には空調の整備は行っておりません。

●委員 暑いですね。子どもには酷ですよ。

◇事務局 理由の1つとして、中学校は受験のために夏休みも集まって授業を行います。それが特に暑いので、中学校から取り組むという形になっています。

●委員 では周南市は、小学校についてはまだしばらく夏休みは長いんですよ。最短十日といった話もありますが。

◇事務局 そうということになります。

○会長 ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。では評価に移ります。

K P I のタブレットについてはまずまずの進捗状況で、空調整備については進行中で30年度まではわからないという部分もあります。なかなか評価しにくいという点があり、昨年と同様のB評価かなと思います。いかがでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 まだ判断できる時期ではないということで、Bという評価といたします。では続いて次の基本目標に移ります。事務局にて説明をお願いします。

#### 【基本目標3の(1)についての議事】

◇事務局 ～基本目標3の(1)について説明～

○会長 ありがとうございます。去年も質問がありましたが、共創プロジェクトというものがどんなものか、簡単にご説明をお願いします。

◇事務局 共創プロジェクトは、異なる団体が創意工夫を行い、新たな事業を興していく、というものです。市としては、初期費用として100万円を上限に支援し

ます。その後、それをきっかけにその地域に根付き、地域を活性化するような取組みを行っていただく、というものです。

○会長 ありがとうございます。委員の皆様いかがでしょうか。

●委員 平成31年度の目標値が100件とありますが、申請されてから採択までの状況を見て、この目標値は見直す可能性はあるのでしょうか。

◇事務局 現時点では、31年度までに100件の申請件数を目指しているところです。29年度も40件という数字をあげていますが、今年度は3期に分けて認定することになっており、1期についてはすでに認定しています。これについての内訳は、6件の申請中6件の採択です。2期については、8月にメ切、3期は10月にメ切となっており、それぞれ分けて申請することになっています。申請に至る過程で、市の職員とプロデューサーが一緒になって、地域の団体の掘起しを進めていきたいと考えております。ですから、目指すところは31年度の100件だと、私たちは考えています。

●委員 所管部局の評価欄に、「11件の候補団体が生まれ」と記載がありますが、この団体が生まれたことにも、市としては関わっているのでしょうか。

◇事務局 プロデューサーにも委託をしております。カジュアルな説明会である共創カフェも開催しております。申請に至るまでの取組みも、市としては支援しております。

●委員 28年度は11件の候補団体があり、そういった団体に関わった結果、そのうちの6団体から申請が出たということですね。11団体すべてが申請を行ったというわけではないのですね。

◇事務局 はい。有識者の選考委員会を設けていますので、申請件数＝認定件数にはならない状況です。有識者の意見を聞きながら採択していく、という状況の中、6件の申請中4件を採択したということです。

●委員 今後も申請を出してもらおうということに積極的に関わっていくということですね。

◇事務局 はい。今後もしっかりと対応していきたい考えです。

○会長 ありがとうございます。前はBという評価ですが、現状としては若干厳しいという面もありますね。いかがでしょうか。

●委員 基本目標の数値目標についてですが、31年度に転出超過数を40まで縮めたいということですね。

◇事務局 そうですね。総合戦略を作った当時は90ほど超過していたので、なんとか半分までは減らしたい、というのが目標です。

●委員 そもそも共創プロジェクトの推進というのが、転出超過の抑制となる事業なののでしょうか。アクションプランでは、主要事業4つについて28年度から取り組んでいますよね。この事業に取り組んだ結果、転出超過数が130にまで

増えている。ということは、こういった事業を行っても結果が出ていないということですね。この点をふまえると、アクションプランについては修正を行って今後取り組んでいかないと、今後も同じような結果にしかならないのではないのでしょうか。

◇事務局 市の施策として人口を増やしたいという面で、産んでください、来てください、もしくは出ていかないと、これを直接的に行うのが難しいという中で様々な手を打つ、その中の1つがこの推進施策です。その1つとして、地域の魅力を高めていく、地元を愛してもらい、地域の価値が高まるような活動をしていくことで、人が留まる、もしくは呼び込めるようなまちをつくりたいということで、この共創プロジェクトに取り組んでいます。このプロジェクトによって直接どれだけの人を引き留められたか、ということになってくると、直接的な効果の面では難しい部分ではあります。

◇事務局 出生数や転出超過、こういったものは総合戦略の肝であり、挑戦的な数字になってしまいます。

●委員 そういったことを言われてしまうと、やってもしょうがないということになりますよね。

◇事務局 様々な取組みを行う中で、この取組みを行ったから人口減少がこのくらいで済んでいる、という見方もあるかと思えます。

●委員 そうなってくると、目標設定の仕方がおかしくなるのではないですか。

◇事務局 おっしゃる通りです。目標設定の仕方も含め、PDCAを回していく中で、ご意見としていただいたことを今後の取組みに活かしながら進めたいと考えています。

●委員 市民が転出するときに、なぜ転出するのかという理由はあるのでしょうか。基本目標の年齢設定が25～39歳なので、夫の転勤に伴うものとか、単に市に魅力がないからなのか。そういった理由が分かるような仕組みがあってデータ化した方が、人口減少の抑制に繋がるのではないのでしょうか。

また高校を卒業後、大学進学の際に周南市の人口が減るのはしょうがないと思います。22、23歳になったときに、周南市に戻ってきてもらえるような仕組みをつくるのが一番いいのではないのでしょうか。周南市に魅力ある企業がどれだけあるのかということになるとは思いますが。基本目標の目標値が25～39歳なので、この転出超過数については就職してその後周南市を出る数値なので、なぜこんなに転出してしまうのかという疑問はありますが。

●委員 転出する人の男女の内訳は分かるのでしょうか。

◇事務局 この数値上については、男女の内訳については現在持ち合わせておりません。第2回開催時までには確認しておきます。

●委員 基本目標についてですが、年齢設定を25～39歳にしているのは、転出に

については18歳の人たちが最も出ていくわけですよ。やりたいことがあってそれを目指して出て行く。そうではなくて、この部分で言いたいことは、山口県の中でも周南市を選んだ人をとということで、25～39歳にしたのではなかったかと記憶しているのですが。

◇事務局 目標設定時に、まずは若者女性が住みたいということで、25～39歳に設定するのか、18～39歳や20～39歳に設定するのかという話になりました。進学するときに出て行くのは、住民票を移さない人もいますし、進学で入ってくるというのも一時的な住所の異動かもしれません。しかし、就職して移動するというのは、住むという明らかな意思のある転出、もしくは転入が多いと考えられるので、25歳から数値を取った方が安定していると言いますか、住むという意識が強いのではないかとということで、就職した後の数値を取った方がいいのではないかと考え、この年齢設定にしたという記憶があります。

○会長 ありがとうございます。基本目標である転出超過数を抑えるという大きな柱について、どのように取り組むかというのは、この計画を策定した際にも議論になりました。その中の一つで、まちの魅力づくりが重要だろうと考え、共創プロジェクトという形で取り組もう、という決定になりました。その上で、共創プロジェクトについては評価をせざるを得ないと思います。直接的な効果がどの程度あったかというのは、やはりわかりません。ただ、基本目標や事業自体の見直しが必要ではないか、という意見があったということは、会議資料の上で残しておいてください。ちなみに、そういった基本的な柱の部分の見直しというものは、今後あってもいいものなのではないでしょうか。

◇事務局 総合戦略というものは5年間の取組みで、少なくとも5年は続けていこうという姿勢のものです。ただ、今後総合計画の策定などもありますので、その際は先ほどいただいた意見も取り入れて、活かしていきたいと思えます。

○会長 そうですね。ぜひ今後の参考にしてください。今回は、大きな柱である「共創プロジェクトの推進」についてはこのままで、評価を行います。では評価についてはいかがでしょうか。

●委員 Cではないでしょうか。

○副会長 絶対値といいますか、上限はあまり高くないと思います。というのも、担える人材というのはかなり限られてきます。よって31年度までに共創プロジェクトの申請件数100件というのは、難しいのではないのでしょうか。

○会長 そうですね。私も、共創プロジェクトに関わった者としては、人材に限りがあるように感じています。

●委員 共創プロジェクトを行うことによって転入数が増えているのであれば、評価できるのではないのでしょうか。やらないよりやった方が良かったという意味ですが。

○会長　　そうですね。ただ、転出、転入の数値の直接的要因としてこの事業を結び付けるのは、なかなか難しいと思います。魅力的なまちをつくるということは、転出超過数の抑制にとってはプラスだろうと判断し、共創プロジェクトとして多数の団体を結び付けて新しいものを作る、という考え方です。

◇事務局　　参考までに、28年度のプロジェクトとして、三作神楽の後継者問題の解決、地域の特産品のブランド化、耕作放棄地問題の解決、障害者就労機会の確保、中山間地域での新産業の創出、大津島観光客の増加とあります。こうした取り組みの名前をみると、地方創生に繋がるような取り組みは行っているとは思いますが、これをKPIで数値化すると6という実績になります。先ほど担当課が説明したように、申請に至るまでのプロセスも大切という見方もあります。この評価シートの中では出てきませんが、申請数は6団体ですが候補団体としては11団体関わりがあった、という捉え方もできると思います。

○会長　　そうですね。本当に31年度までに100という数字を達成しようと思えば、そういった人材を育てるという面では、プロデューサーも一人では足りないですよ。

◇事務局　　プロデューサーを中心に、市と連携して取り組んでいますが、次のプロデューサーを養成する講座も現在行っております。先日開催した際は、約15人の参加があり、次の担い手として私たちも期待しています。

○会長　　ありがとうございました。そういったことを背景に、評価についてはBかCかということだと思います。C評価の「部分的な見直しが必要である」という部分に該当するような気がしますが、いかがでしょうか。

●委員　　アクションプランの内容が抽象的で、具体性に欠けるような気がします。この内容で今後効果を見極めるのは非常に難しいので、もっと具体的に見直した方が分かりやすいと思います。

●委員　　去年も同様の意見があったように思います。

○会長　　そうですね。その辺りも含めて、改めて部分的な見直しは必要だと感じますので、C評価といたします。では次の評価に移ります。事務局にて説明をお願いします。

#### 【基本目標3の(2)についての議事】

◇事務局　　～基本目標3の(2)について説明～

○会長　　ありがとうございました。先ほどの推進施策に比べてこちらの方は、直接的に転出超過数の抑制に繋がりそうですね。お気付きの点やご質問についていかがでしょうか。

●委員　　クリエイティブ産業進出支援事業について実績値が0になっていますよね。去年は翔北中学校にマンガ関連企業を誘致、という話があったと思いますが、それは実績値に含まれないのでしょうか。

- ◇事務局 クリエイティブ産業進出支援事業では、翔北中学校の事業は含んでおりません。
- 委員 創業はたしかに実績があがっていますが、一方で廃業についても周南市は多いように感じます。廃業のデータについては持っているのでしょうか。
- ◇事務局 廃業のデータは持ち合わせておりません。
- 委員 周南市はおそらく廃業の方が多いと思います。廃業を上回るには、もっと創業数を増やしていかないと、目標の達成はなかなか難しいと思います。
- 会長 たしかに廃業についてのデータも必要かもしれませんね。
- ◇事務局 現時点で廃業のみを探すという手段を持っていません。
- 委員 商工会議所ならおそらく分かるのではないのでしょうか。
- 委員 必要なのは、この制度を利用した廃業の数ですよね。去年の会議だと、この制度が始まって1年未満なので、廃業については聞いていないということだったと思います。まずないとは思いますが。創業したけれども、1年経たずに廃業したというものはありますか。
- ◇事務局 そういった事例はありません。
- 会長 ありがとうございます。評価に移りますが、全体的に順調に推移しているので、昨年に引き続きAという評価でしょうか。いかがでしょうか。
- 委員 (全員、異議なし)
- 会長 ではAという評価にいたします。続きまして次の評価に入ります。
- 【基本目標3の(3)についての議事】**
- ◇事務局 ～基本目標3の(3)について説明～
- 会長 ありがとうございます。こちらも基本目標に対して直接的に寄与するものじゃないかと思います。意見などありましたらお願いいたします。
- ◇事務局 追加で説明いたします。シティプロモーション事業が平成29年1月から始まっております。市に愛着を持ってもらうという面で、しゅうニャン市のプロジェクトとして始まったものです。
- 委員 UJIターンの相談件数について目標を大きく上回っていますが、この事業によって実際に周南市に定着された方の実績値を教えてください。
- ◇事務局 市の事業を使って移住した世帯数は、16世帯です。また、中山間地域への移住というのもメインになっています。16世帯のうち15世帯が、中山間地域への移住の実績値です。
- 会長 主要事業の一つである「地域雇用マッチング事業」について、28年度に数値が入っていないのはなぜでしょうか。
- ◇事務局 先行型交付金を活用して地域雇用マッチング事業を行いましたので、27年度は実績があります。その時の評価にもありましたが、費用対効果が望めないということがありました。よって現在は見直しを行うために、中断しています。

本年度は地域雇用マッチングから女性雇用マッチングに名前を変え、新たに取  
り組む準備を行っています。

○会長       では評価に移ります。昨年A評価ですが、今年度も全体的に順調に推移して  
おりますので、Aという評価でよろしいでしょうか。

●委員       U J I ターンの相談件数は結構多いのですね。ちなみに同じ方が2回相談し  
たら、それぞれ実績として計上するのでしょうか。

◇事務局     同じ方でも内容の異なる相談があるので、相談件数の総数という形で計上し  
ています。

○会長       ありがとうございます。では昨年同様Aという評価にいたします。続いて次  
の評価に移ります。事務局にて説明をお願いいたします。

【基本目標3の(4)についての議事】

◇事務局     ～基本目標3の(4)について説明～

○会長       ありがとうございました。私から補足説明いたしますと、地(知)の拠点に  
よる地方創生事業というものは、域内の学生就職率を上げるという目標で行っ  
ており、地域、自治体と協力して取り組むというものです。そういった取組み  
を、総合戦略の主要事業として掲げております。

評価についてですが、まだ実績値に結びついていないという意味で、BかC  
になると思います。いかがでしょうか。

●委員       市内企業インターンシップ推進事業について、抽象的ですよ。もっと具体  
的な取組みについて教えてください。

◇事務局     現在、県内には山口県インターンシップ推進協議会という団体があります。  
これは県内の大学と民間企業と、山口県や山口労働局がサポートする中で作ら  
れた団体です。インターンシップ推進協議会に登録している県内の企業は約5  
00社あり、その中で周南市の企業は約60社です。この取組みの中で周南市  
が商工会議所などと連携し、インターンシップを受け入れてもいいという企業  
の情報を集め、インターンシップ推進協議会に提供し、協議会への周南市の登  
録企業数を増やしていく。その結果インターンシップの実績を増やしていきた  
い、と考えております。参考までに、昨年度の受け入れ実績は25社で、70  
人の学生を受け入れたということです。

○副会長     今のお話を伺うと、数字も具体的に出てきましたが、28年度の斜線にな  
っている部分にその数字を入れることはできないのでしょうか。

◇事務局     市としては今から動こうと考えていますので、28年度実績には入れており  
ません。28年度は、周南市がインターンシップ推進協議会と連携していない  
状況の実績があがることとなります。

●委員       まだ制度設計はできていないのでしょうか。

◇事務局     28年度に制度設計を行い、29年度に動き出すということです。現在は商

工会議所と商工会に、協力依頼を行う面で調整を行っています。インターンシップ推進協議会とはすでに協議は済んでおります。

○会長 制度設計がなく、県のインターンシップ推進協議会を通じて市内にインターンシップをした学生は何人かいますが、それは市が取組みを行う前なので、あえて表記されないということですね。

●委員 中小企業側は、取り組みたくても方法が分からないということがあると思います。そういった部分で門戸を広げるような取組みを、市に行っていただきたいですね。

○会長 以上のことを含め、評価についてはBでよろしいでしょうか。

●委員 (全員、異議なし)

○会長 ではB評価といたします。では残りの基本目標4と5については、第2回会議にて評価を行います。

以上で、次第に基づくすべての日程を終了いたしました。長時間にわたり、委員の皆様大変ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

## 7 その他

◇事務局 ～その他、今後の日程等について説明～

## 8 閉会

◇部長 皆さま、長時間のご審議たいへんお疲れ様でした。次回の会議についてもどうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

◇事務局 以上をもちまして、「第1回 周南市まち・ひと・しごと創生戦略会議」を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。